素描三題

芥川龍之介

青空文庫

一　お宗さん

お宗さんは髪の毛の薄いためにどこへも縁づかない覚悟をしてゐた。が、髪の毛の薄いことはそれ自身お宗さんには愉快ではなかつた。お宗さんは地肌の透いた頭へいろいろの毛生え薬をなすつたりした。

「どれも広告ほどのことはないんですよ。」

かういふお宗さんも声だけは善かつた。そこで賃仕事の片手間に一中節の稽古をし、もし上達するものとすれば師匠になるのも善いと思ひ出した。しかし一中節はむづかしかつた。のみならず酒癖の悪い師匠は、時々お宗さんをつかまへては小言以上の小言を言つたりした。

「お前なんどは肥たご桶を叩いて甚句でもうたつてお出でなさりや善いのに。」

師匠は酒の醒めてゐる時には決してお宗さんにも粗略ではなかつた。しかし一度言はれた小言はお宗さんをひがませずには措かなかつた。「どうせあたしは檀那衆のやうによくする訣には行かないんだから。」――お宗さんは時々兄さんにもそんな愚痴などをこぼしてゐた。

「曾我の五郎と十郎とは一体どつちが兄さんです？」

四十を越したお宗さんは「形見おくり」を習つてゐるうちに真面目にかういふことを尋ねたりした。この返事には誰も当惑した。誰も？　――いや「誰も」ではない。やつと小学校へはひつた僕はすぐに「十郎が兄さんですよ」といひ、反つてみんなに笑はれたのを羞しがらずにはゐられなかつた。

「何しろああいふお師匠さんぢやね。」

一中節の師匠になることはとうとうお宗さんには出来なかつた。お宗さんはあの震災のために家も何も焼かれたとかいふことだつた。のみならず一時は頭の具合も妙になつたとかいふことだつた。僕はお宗さんの髪の毛も何か頭の病気のために薄いのではないかと思つてゐる。お宗さんの使つた毛生え薬は何も売薬ばかりではない。お宗さんはいつか蝙蝠の生き血を一面に頭に塗りつけてゐた。

「鼠の子の生き血も善いといふんですけれども。」

お宗さんは円い目をくるくるさせながら、きよとんとしてこんなことも言つたものだつた。

二　裏畠

それはKさんの家の後ろにある二百坪ばかりの畠だつた。Kさんはそこに野菜のほかにもポンポン・ダリアを作つてゐた。その畠を塞いでゐるのは一日に五、六度汽車の通る一間ばかりの堤だつた。

或夏も暮れかかつた午後、Kさんはこの畠へ出、もう花もまれになつたポンポン・ダリアに鋏を入れてゐた。すると汽車は堤の上をどつと一息に通りすぎながら、何度も鋭い非常警笛を鳴らした。同時に何か黒いものが一つ畠の隅へころげ落ちた。Kさんはそちらを見る拍子に「又庭鳥がやられたな」と思つた。それは実際黒い羽根に青い光沢を持つてゐるミノルカ種の庭鳥にそつくりだつた。のみならず何か※冠らしいものもちらりと見えたのに違ひなかつた。

しかし庭鳥と思つたのはKさんにはほんの一瞬間だつた。Kさん

はそこに佇んだまま、あつけにとられずにはゐられなかつた。その畠へころげこんだものは実は今汽車に轢かれた二十四五の男の頭だつた。

三　武さん

武さんは二十八歳の時に何かにすがりたい慾望を感じ、（この慾望を生じた原因は特にここに言はずともよい。）当時名高い小説家だつたK先生を尋ねることにした。が、K先生はどう思つたか、武さんを玄関の中へ入れずに格子戸越しにかう言ふのだつた。

「御用向きは何ですか？」

武さんはそこに佇んだまま、一部始終をK先生に話した。

「その問題を解決するのはわたしの任ではありません。Tさんのところへお出でなさい。」

T先生は基督教的色彩を帯びた、やはり名高い小説家だつた。武さんは早速その日のうちにT先生を訪問した。T先生は玄関へ顔を出すと、「わたしがTです。ではさやうなら」と言つたぎり、さつさと奥へ引きこまうとした。武さんは慌ててT先生を呼びとめ、もう一度あらゆる事情を話した。

「さあ、それはむづかしい。……どうです、Uさんのところへ行つて見ては？」

武さんはやつと三度目にU先生に辿り着いた。U先生は小説家ではない。名高い基督教的思想家だつた。武さんはこのU先生により、次第に信仰へはひつて行つた。同時に又次第に現世には珍らしい生活へはひつて行つた。

それは唯はた目には石鹸や歯磨きを売る行商だつた。しかし武さんは飯さへ食へれば、滅多に荷を背負つて出かけたことはなかつた。その代りにトルストイを読んだり、蕪村句集講義を読んだり、就中聖書を筆写したりした。武さんの筆写した新旧約聖書は何千枚かにのぼつてゐるであらう。兎に角武さんは昔の坊さんの法華経などを筆写したやうに勇猛に聖書を筆写したのである。

或夏の近づいた月夜、武さんは荷物を背負つたまま、ぶらぶら行商から帰つて来た。すると家の近くへ来た時、何か柔かいものを踏みつぶした。それは月の光に透かして見ると、一匹の蟇がへるに違ひなかつた。武さんは「俺は悪いことをした」と思つた。それから家へ帰つて来ると、寝床の前に跪き、「神様、どうかあの蟇がへるをお助け下さい」と十分ほど熱心に祈祷をした。（武さんは立ち小便をする時にも草木のない所にしたことはない。尤もその為に一本の若木の枯れてしまつたことは確かである。）

武さんを翌朝起したのはいつも早い牛乳配達だつた。牛乳配達は武さんの顔を見ると、紫がかつた壜をさし出しながら、晴れやかに武さんに話しかけた。

「今あすこを通つて来ると、踏みつぶされた蟇がへるが一匹向うの草の中へはひつて行きましたよ。蟇がへるなどといふやつは強いものですね。」

武さんは牛乳配達の帰つた後、早速感謝の祈祷をした。――これは武さんの直話である。僕は現世にもかういふ奇蹟の行はれるといふことを語りたいのではない。唯現世にもかういふ人のゐるといふことを語りたいのである。僕の考へは武さんの考へとは、――僕にこの話をした武さんの考へとは或は反対になるであらう。しかし僕

は不幸にも武さんのやうに信仰にはひつてゐない。従つて考への喰ひ違ふのはやむを得ないことと思つてゐる。

（昭和二・五・六）

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
　　1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行
　　1971（昭和46）年10月5日初版第5刷発行
入力：j.utiyama
校正：j.utiyama
1999年2月15日公開
2004年3月9日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

素描三題

芥川龍之介

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/